

大間原子力発電所の建設についての質問

- 1 これまで、既存の発電所で十分電力需要を賄ってきたことを踏まえると、再稼働とは違い、電力需給と関係がない大間原発の工事再開は理解できない。なぜ必要と判断したのか。
- 2 使用済み燃料の再処理工場が稼働出来る状態になく、最終処分の方途も立っていない。また、大間原発でも使用済み燃料を20年分しか保管できないと聞いている。核燃料サイクルが確立していない中で、大間原発を建設・稼働させる理由は何か。
- 3 原子力規制委員会において新たな安全審査基準を策定中であり、この基準に適合させる必要があるが、基準が未定である状況の中で、なぜ今、工事を再開するのか。
- 4 大間原発の建設にかかる地点設定の際の環境審査や設置許可の際の安全審査にあたっては、EPZの範囲を前提として公開ヒアリング等を実施しているが、国は、EPZに代えてUPZを設けるとしている。函館市も含めて、改めて説明会の開催などにより住民意見を聞き、環境アセスメントを実施するなど、手続きをやりなおすべきと考えるが、事業者としてどのように考えているのか。
- 5 大間原発のすぐ近くには、建設にあたっての安全審査において考慮されなかった活断層の存在が指摘されているが、どのように考えているか。また、仮に活断層が確認された場合、建設を中止するのか。
- 6 福島第一原発の事故以前に出された設置許可を根拠として工事再開を進めることは理解できない。福島第一原発の事故の要因は何であったのか、事業者として把握出来ているのか。
- 7 大間原発で事故が起きた場合の被害をどのように想定し、どのような対策を講じようとしているのか。
- 8 大間原発の3海里(約5.5km)先は国際海峡(津軽海峡)であり、不特定多数の様々な船舶が航行している。非常に至近距離であるが、テロ対策や不審船への対応などはどのように考えているのか。
- 9 原発が安全であれば、エネルギーの送電ロスを考慮すると、主な消費地である首都圏に建設した方が効率的であると考えますが、なぜ過疎地である本州の最北端に建設するのか。
- 10 貴社の企業理念において、使命として「人々の求めるエネルギーを提供し」とあるが、国民の多くが脱原発を望んでおり、政府としても脱原発を目指している中で、なぜ大間原発の建設を急ぐ必要があるのか。